

校内別室利用生徒の授業参加と学習以外の経験について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校1年生秋頃から欠席が増え始め、不登校となった。冬頃から校内別室の利用を開始した。学習意欲は低く、自習も多く進めることができなかったが、校内別室の利用を続けるうちに、中学校2年生の秋頃には、特定の教科等の授業に参加するようになった。また、徐々に会話表現が豊かになっていった。

具体的な取組

○生活の見守り

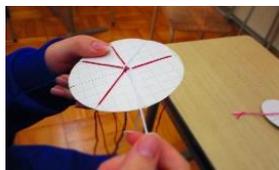
当該生徒は、登校意欲はあるが集団活動への参加に課題が見られたため、校内別室では自習のサポートや生活リズムの把握を行い記録した。当該生徒は支援員との話を重ねるうちに、学習や生活の悩みなどを話すようになった。また、校内別室での生徒同士の関わりから、表情が和らぎコミュニケーションが増えた。

○教員との連絡・連携・相談

校内別室の利用生徒は教室に入ることが難しいため、教員と連携し生徒への連絡事項や行事予定を知らせるようにした。また、当該生徒が授業への参加を希望したときには、担当教科の教員と相談して当該生徒の授業参加を支援した。教員が校内別室に来てくれることが、当該生徒の参加意欲向上につながった。

○学習以外の経験

実技教科等へなかなか参加できていない当該生徒には、支援員の特技等を生かして、簡単な運動をしたり、手芸活動をしたりした。当該生徒の活動への意欲が高まり、友人と笑顔で楽しく取り組む姿が見られた。



○地域との交流

家庭と校内別室以外で他人との関わりが少なかった当該生徒には、近隣の地域福祉施設や資料館への訪問ができるように計画した。地域の方と交流をしたり、資料館を見学したりするなどして、初対面の人との交流に慣れていく様子が見られた。



成果

校内別室等での多様な経験や活動機会の提供により、当該生徒がそれらの活動を楽しみにして登校する様子が見られるようになった。徐々に学級での授業参加に対する不安が取り除かれ、学級での授業参加への自信につながった。

課題

生徒によって目標や状況が異なるため、当該生徒に十分なアセスメントを重ねた上で校内別室での支援の検討を進めていく。